

## 第3章 立地適正化計画の基本的な方針等

### 1 まちづくりの方針（ターゲット）と施策・誘導方針（ストーリー）

#### 1.1 まちづくりの方針（ターゲット）

第二次美祿市総合計画においては、まちの将来像を『若者・女性・地域がかがやきこどもの笑い声が響く「誇れる郷土・秋吉台のまち」』、基本理念を『秋吉台の魅力を活かし、みんなの力で創り出す！「観光・産業 共創 CITY」』と設定し、計画の主眼・目的として、「人口減少社会の克服・持続可能なまちづくり」を掲げている。

また、美祿市都市計画マスタープランにおいては、都市づくりの理念を「市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす 住みたいと思うまち・交流拠点都市 美祿市」と掲げ、将来都市構造として「集約型都市構造」を目指すこととしている。

立地適正化計画においては、人口減少社会を見据えた持続可能なまちづくりに焦点を当て、立地の適正化により解決すべき課題を踏まえて、以下の通り、まちづくりの理念、目標、方針（ターゲット）を定める。

#### ■まちづくりの理念

市民が「夢・希望・誇り」をもって暮らす  
住みたい・住み続けたいまち 交流拠点都市 美祿市

#### ■まちづくりの目標

みんなが元気にかがやき つどえる いつまでも  
住み続けられるまちづくり ～コンパクトなまち～

#### ■まちづくりの方針（ターゲット）

### 1. 育（はぐくむ）

～市民の快適で生きがいのある生活を守り、市民と本市を訪れる人や市民同士の交流を促進するまち～

- 店舗や飲食、公共施設等の活動の場や日常的な居場所が一体的に利用しやすい場所にあるとともに、自然を感じてやすらげる環境や家族・友人等いつでもつどい憩える環境が身近にある、幅広い世代が暮らしやすいまちを目指す。

### 2. 繋（つなぐ）

～市民と本市を訪れる人が、地域内及び地域間を便利に安心して移動できるまち～

- 徒歩又は公共交通を利用することで、自家用車に頼りすぎなくても一定の生活サービスを享受でき、市民や来街者が不自由なく移動できるとともに、各地域内を歩いて安全に回遊できるまちを目指す。

### 3. 備（そなえる）

～本市に暮らす人たちが相互に協力し、安全に安心して住み続けられるまち～

- 災害リスクの低い地域や、災害リスクが危惧されても発災時の避難場所や避難体制が確保できている地域に、安全に安心して暮らすことができ、市民同士が共助の心構えて柔軟に対応できる、災害に強いまちを目指す。

## 1.2 施策・誘導方針（ストーリー）

課題の解決及びまちづくりの方針の実現に向けて必要となる誘導方針（ストーリー）を以下に示す。

### ■課題解決のために必要な施策・誘導方針（ストーリー）

#### やすらぎと活力に満ちた地域への愛着を育むまちづくり

---

- 美祢地域では高次の都市機能、秋芳地域、美東地域では交流、産業、健康、日常生活を支える都市機能を誘導することにより、3地域の特性を活かした拠点を形成するとともに、相互の連携を強化し、生活利便性の維持・向上を図る。
- 空き家や低未利用土地の有効活用を促進することにより、市街地の低密度化を抑制しつつ、良好な居住環境の形成を図る。
- 公共施設の再編等や公共交通ネットワークの拠点施設整備、豊かな自然とふれあえる環境の整備等により、訪れたい居心地の良い空間を形成することで、賑わい創出を図る。

#### くらしと交流を支える持続可能な交通ネットワークの構築

---

- 路線バス以外の交通モードも組み合わせた柔軟な公共交通ネットワークを構築することにより、公共交通の利便性を高め、各地域内で不足する生活サービスを他の拠点で補完する環境の整備を図る。
- 美祢地域、秋芳地域、美東地域間のつながりの強化に向けて、交通結節点の機能向上等により、市民や来街者の交流を促進する交通ネットワークの構築を図る。
- 快適な歩行空間の整備等により、安全・安心に歩いて楽しめるまちなかの形成を図る。

#### 力を合わせて災害に備えるまちづくり

---

- 災害リスクの低いエリアへの住居の移転を促進し、安全な居住環境を実現する。
- 災害に強い都市基盤を整備し、安心して暮らせるまちづくりを推進する。
- 都市拠点及び地域拠点周辺の人口集積を維持することにより、災害発生時の共助に資する地域コミュニティ機能を強化する。

## 2 目指すべき都市の骨格構造

まちづくりのターゲットとストーリー、美祢市都市計画マスタープランに示される将来都市構造を踏まえ、誘導区域や施策検討の前提となる、本市の目指すべき都市の骨格構造を以下に示す。

表 3-1 拠点と軸の形成方針

拠点と軸の形成方針		機能
拠点	都市拠点	本市のまちの中心となる生活サービス提供基地の役割を担う拠点として、商業、行政等の中枢的な機能が集積し、公共交通等の利便性に優れている、JR 美祢駅から市役所周辺を位置づける。 公共交通の結節点としての機能、行政、文化・交流、商業・業務、サービス、医療・福祉機能等、高次の都市機能の集積を図る。
	地域拠点	地域コミュニティを醸成しながら、拠点間及び東部の近隣自治体間をつなぎ循環を生むハブの役割を担う拠点として、公共施設や店舗、病院等の生活サービスが集積し地域の日常生活と地域活動を支えている、秋芳、美東の各地域の総合支所周辺を位置づける。 交流人口の受け入れ、観光産業の振興、健康の増進及び日常生活に必要な都市機能の集積を図る。
	生活拠点	田園集落地において、農林業に携わる市民等の生活の場を担う拠点として、地域の集会所である公民館等の周辺地域を位置づける。 生活環境、地域の活力・コミュニティの維持を図る。
軸	基幹的交通軸	広域連携を支える役割を担う軸として、本市西側から北側を結ぶ JR 美祢線、都市拠点と地域拠点を結ぶ路線バス、市内と市外を結ぶ路線バス等を位置づける。 本市の都市拠点、地域拠点と隣接市町をつなぐ交流・物流の強化を図る。
	地域内交通	日常生活に欠かせない移動を支える役割を担う軸として、生活拠点と都市拠点、生活拠点と地域拠点を結ぶバス路線等を位置づける。 地域間の移動を伴う日常生活における利便性・アクセス性の向上を図る。

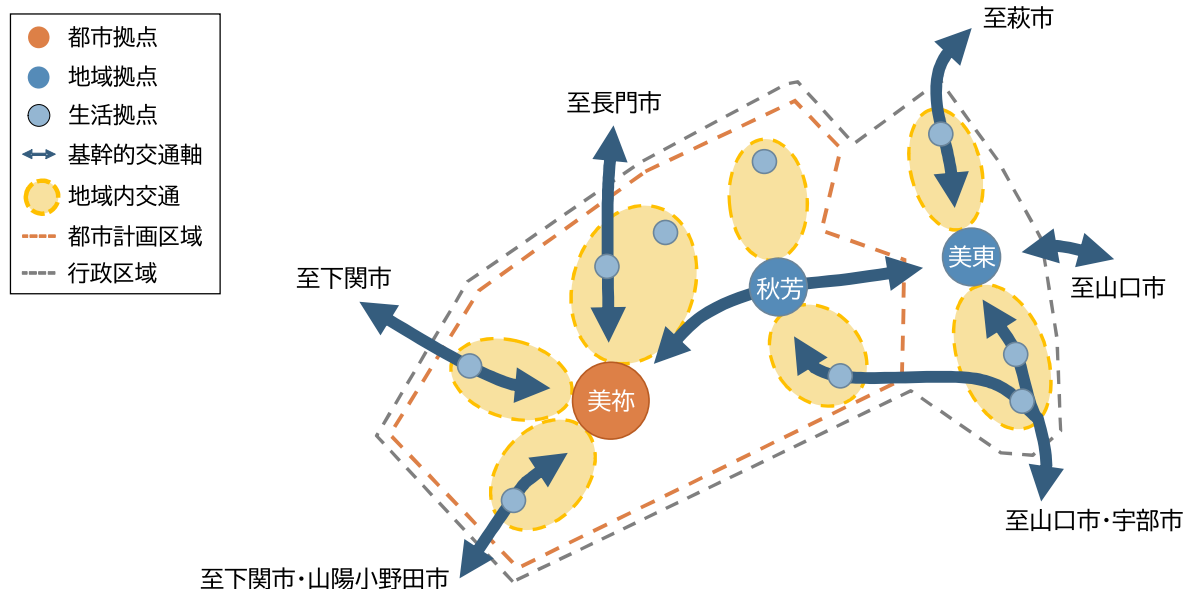


図 3-1 目指すべき都市の骨格構造

### 3 居住・都市機能誘導の考え方

今後さらなる人口減少・高齢化の進行が予測され、効率的なまちづくりが求められるなかで、持続可能なまちを実現するためには、ある程度絞った地域に焦点を当て、求心力・賑わいのあるまちを形成することが必要である。そして、そのエネルギーを交通ネットワークで他の拠点へとつなぎ、拠点間の相乗効果で波及させていくことを考える必要がある。

そのため本市では、美祢、秋芳、美東の3地域の役割を踏まえ、本市の中心を担う「都市拠点」として位置づけた美祢地域に、居住・都市機能を誘導することを考える。

秋芳地域、美東地域は「地域拠点」として、現在居住している市民の居住環境を維持しつつ、拠点周辺では利便性の向上を図る。なお、都市再生特別措置法において、都市計画区域外は立地適正化計画の区域外となることから、本市独自の区域として、地域拠点エリアを設定する。

#### ■目指すべき将来像「コンパクトなまち」を実現するために必要なこと

- ・ 効率的なまちづくりのためには、ある程度絞った地域に焦点を当て、まちの中心を形成すること
- ・ 中心となるまちと他の地域を交通ネットワークでつなぐこと

#### ■美祢地域

- ・ 美祢市都市計画マスタープランで「都市拠点」に位置づけられている
- ・ 市役所等の中枢機能が立地しているほか、鉄道駅等の公共交通の利便性にも優れており、市民が暮らしを営む上で重要な機能が集積している

#### ■誘導区域の設定の考え方

美祢市の中心を担う美祢地域に、居住・都市機能を誘導する

図 3-2 美祢市における居住・都市機能誘導の考え方

《美祿市における居住・都市機能誘導の考え方のイメージ》

